

平成27年度全国学力・学習状況調査 分析結果

京都市立楽只小学校

4月に実施しました「平成27年度全国学力・学習状況調査」の分析結果をまとめました。「児童質問用紙調査から」「国語A・B」「算数A・B」「理科」の3つ視点から本校の子どもたちの状況をお伝えします。(理科は平成24年度から3年に1度の実施です)

国語A、理科が全国平均を若干下回っていますが、関心・意欲・態度は調査対象のいずれの教科(国語・算数・理科・総合的な学習の時間)においても全国平均を上回っていました。特に算数への関心等は、全国平均を大きく上回っており、これまで校内研究として算数科に取り組んできたことの成果が表れていると考えられます。また、どの教科においても、無解答はほぼなく、最後まであきらめず取り組もうとする姿勢が育っています。こうした姿勢がB問題において、全国平均を上回る結果として表れてきています。

国語科

今年度の結果からは、主語と述語、修飾と被修飾の関係を捉えることに課題が見られました。文や文章の内容を理解したり表現したりする最も基礎となる部分であり、他の分野での課題につながっていると思われます。また、昨年度同様、児童質問紙から「聞く姿勢」は良好ですが、自分の考えや意見と比較しながら聞くことに課題が見られました。

これらの課題を解決していくためには、普段の授業中はもちろん、日常の会話の中や日記などでも意識して指導をしていく必要があると考えています。

- ・日常の会話の中でも、「だれは(が)」「何は(が)」といった主語を意識してみよう。
- ・自分の考えや経験と比べながら、友だちの発表をきいてみよう。



算数科

全体的には概ねできていましたが、領域別に分析した際、基礎的な部分(A問題)で気になった点は以下の通りです。

○小数の仕組みの理解 ○円の性質と特徴の理解 ○単量当たり・割合の考え方

どの領域も計算や知識など、形式的に処理することはできていましたが、既習内容を基にしながら、他のことを関連させて考えることに課題が見られました。

今年度も全領域で共通して、「問題文の意味理解や根拠を示しながら記述すること」に課題が見られました。しかし、児童質問紙では、「記述問題も最後まで解答を書こうと努力した」と回答した児童は100%という結果が出ており、児童の粘り強く取組む力がついてきていることが伺えました。

- ・自分の考えを積極的に発表しよう。
- ・自分の考えを振り返り、きちんと根拠があるか確かめてみよう。



理科

どの領域においても基礎的な知識の定着が見られました。一方で解顕微鏡やメスシリンダーなど、実験・観察器具の適切な操作技能に関する知識の定着が不十分な面が見られました。また、月や星座に関する単元の理解に課題が見られました。学校以外の場所でも、日常的に方位を意識し、正確に捉えられるようにすることが必要だと考えられます。

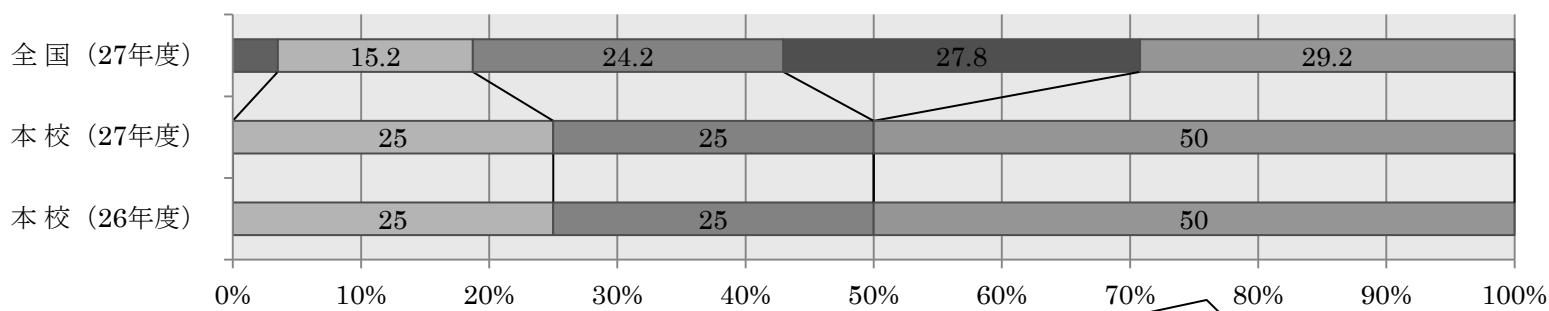
- ・実験器具の使用目的や操作の意味にも注目しよう。
- ・日常の事象と学習内容を関連付けて考えてみよう。



児童質問紙より①

昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするに、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。

- 1. だいたい週に4回以上行く
■2. 週に1～3回程度行く
■3. 月に1～3回程度行く
■4. 年に数回程度行く
■5. ほとんど、または、全く行かない

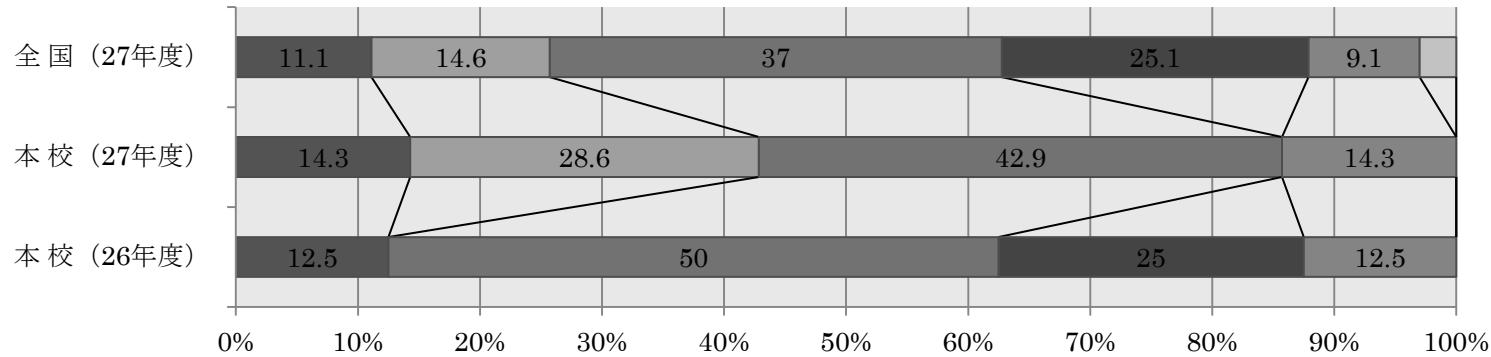


学校図書室や地域の図書館を「ほとんど、または、全く行かない」と回答している児童が平成 26 年度から 50% となっており、全国平均と比べても非常に多いことが分かります。そこで、昨年度からは朝読書の取組を充実させるとともに、今年度からは本校にも図書館運営支援員が配置され、図書室の整備や図書の読み聞かせなどのイベントを実施し、読書活動の推進を行っています。

児童質問紙より②

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教室に教わっている時間も含む）。

- 1. 3時間以上
■2. 2時間以上、3時間より少ない ■3. 1時間以上、2時間より少ない
■4. 30分以上、1時間より少ない ■5. 30分より少ない
■6. 全くしない



平日に 1 時間以上学習している児童の割合が、今年度は全国平均よりも大きく上回りました。（学習塾で勉強している児童の割合は低い）「家で、学校の宿題をしていますか」の質問も「している」が 100% となり、家庭学習の習慣が定着してきていることが伺えます。今後も『家庭学習の手引き』をもとに家庭と連携をしていきながら、基礎学力定着のための取組を進めていきたいと思います。

本校の成果と課題

本校では、基礎学力の定着を目指して、昨年度から帯時間を設け、ジョイントプログラムの結果分析とともに前学年の学習内容も含めた計算などのドリル学習に取り組んでいます。取組の成果として、今年度の全国学力・学習状況調査の「数と計算」の領域では、A問題・B問題ともに全国平均を上回ることができました。また、今年度からは、月1回の土曜学習を学級担任が月替わりで担当し、児童の実態にあわせた課題に取り組むことで、さらなる底上げを図っているところです。

一方、どの教科においても、問題文の意味理解や根拠を明らかにしながら説明・記述することに対して、依然として課題があることもわかつてきました。そこで、日々の学習の場面では、ペア学習や話し合いでの集団解決を積極的に取り入れ、自分の考えを相手に分かりやすく伝える練習に取り組んでいます。また、今年度より児童朝会の日を設定し、児童が自分たちだけで朝会を企画・運営する取組を進めています。まだまだ改善の必要はありますが、全体の場で臨機応変に自分の意見や感想を発表できるようになってきています。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決していくものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。

学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果をみると、これまでの調査に比べて、着実に学力は伸びてきており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れているものと考えています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご支援・ご協力をお願い致します。